

キラリ 熱中時間

深谷市にゆかりがあり、市内外で活躍する個人や団体を紹介します。

夢をかなえ、市内でピアノ講師と技人として活動！



『技人』ピアニスト
古澤玲奈さん

『心』に寄り添った
指導

「ピアノは誰が弾いても音が出ますが、『気持ち』や『想い』で音色が変わります。そのため、技術はもちろんそれ以上に、生徒の心に寄り添うことを大切に考えながら教えています。」と話すのは、深谷市の技活（人材バンク）に『技人』として登録しているピアニストの古澤玲奈さんです。古澤さんは3歳からピアノを習い始め、高校・大学で音楽を学んだ後、市内に『古澤玲奈ピアノ教室』を開きながら、技人として自身の技術を市の『技活サイト』で動画紹介しています。

市外の高校や大学へ通ったものの、ずっと深谷に住んでいたの、卒業後に幼いころからの夢であるピアノ講師をするのは地元

深谷以外考えていなかったという古澤さん。ピアノ講師として活動するかわら、7月には同じ『技人』として登録するフルート奏者と一緒にコンサートを開催したり、秋にはフルート奏者の川上葉月さんと『深谷えん旅』に参加し、普段は見ることできないピアノの音が出る仕組みを見る『ピアノの解体ショー』を行ったりするなど、教室外のかたにも音楽を身近に感じてもらえる活動にも力を入れています。今後は、教室の講師として教えるだけでなく、自身も一演奏家としてピアノに精進していきたいという古澤さん。これからも活動の場を広げた活躍が期待されます。

※技人…技活（市の人材バンク）に登録している独自の技術や知識を持つ人材



▲発表会で講師演奏をする古澤さん。『埼玉ピアノコンクール』では県知事賞を受賞するほか、イタリアでの演奏経験もあります。

古澤さんにも出演する「アリオコンサート」が開催されます。とき 7月13日(土)午後2時～開場15時～1時(17時) 旧七ツ梅酒造跡芸術精米所 詳しくは月音おんがく教室 ☎0486-800000(平日)

新庁舎

建設進行中！第15回

深谷市役所は、2021年4月に新庁舎へと生まれ変わります。このコーナーでは、新庁舎に関する情報をお知らせしていきます。問い合わせ/新庁舎建設推進室 ☎501 - 2610 今までの取り組みや最新情報は市ホームページをご覧ください。 [深谷市庁舎建設](#) [検索](#)

■外壁の工事を進めています

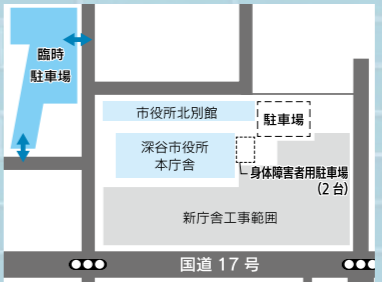
4階立ち上がりの柱・梁が組みあがり、現在は外壁の工事をしています。引き続き、外壁のレンガ積み工事およびアルミ建具工事を進めていきます。



▲6月14日の工事の様子。

- 今後の予定
- 7月 2階アルミ建具工事、3階レンガ工事
- 8月 3階アルミ建具工事、屋根鉄骨工事
- ★市HPで新庁舎完成のイメージ動画を公開中！ぜひ、ご覧ください。

工事に伴い、駐車場が狭くなっているため、市役所へお越しの際は庁舎西側の臨時駐車場をご利用ください。周辺の安全に配慮し工事していますが、ご来庁の際は、十分ご注意ください。



▲臨時駐車場案内図

混雑緩和にご協力ください
駐車場の減少や届け出などの集中により市役所本庁舎が混雑し待ち時間が長くなっています。本庁舎以外の総合支所や公民館などでも取り扱っている業務がありますので、各窓口を利用して混雑緩和にご協力をお願いします。詳しくは市ホームページ(☎「深谷市 窓口の混雑緩和」で検索)をご覧ください。

ふっかちゃんの日常から 深谷が見えてくる

ふっか 散歩



ここは、『煉瓦史料館』だよ。昔は、煉瓦工場の事務所だったところなんだって！『ホフマン輪窯6号窯』は工事中だけど、史料館は毎週土曜日と日曜日には公開してるから、みんなも見に来てねえ〜♪



ふっかちゃんのつぶやき
夏といえばやっぱり祭りだよ〜♪祭りの後ってゴミがたくさん落ちてるから、みんなが少し意識してくれると嬉しいなあ〜(oOwOo)Y

今日は、渋沢栄一さんたちがつくった日本煉瓦製造(株)の旧煉瓦製造施設に来ただけど...何か工事をしているね。『ホフマン輪窯6号窯』は保存のための工事をしているところで、4年後に終わる予定なんだって。ほかの建物も見てみよう〜！



『煉瓦史料館』の中には工場をつくった時の資料とかがいっぱいあるよ！煉瓦をたくさんつくっていたころの工場の模型とかもあるんだって。昔はここから深谷駅まで専用の線路があって、煉瓦を運んでたんだけど、そのころの写真とかもあるんだよ。

心の広場

岡部小学校4年(現5年)
小暮 晴大さん



アイマスク体験を通して

ぼくは、テレビで目が不自由な人を見かけたことがあります。前から目が不自由な人は、「かわいそうだな。」「大変だろうな。」と思っていました。目が不自由な人は、目が悪い人とはちがって、めがねをかけて見えるようになるわけではありません。生まれつき目が見えなくて、生まれてからずっと真っ暗な世界しか見えていない人もいます。

三年生の時、学校でアイマスク体験をしました。教室から、水道までアイマスクをつけたじょうたいで歩いて行くのがアイマスク体験です。二人組のペアになり、たよりにするのは案内をしてくれる友だちの声だけだったのでドキドキしていました。一回目の子どもたちが終わって「楽しかった。」と言っている子がいました。ぼくは「え?。」と思いました。このアイマスク体験は目が不自由な人の気持ちを理か

するために、行っているのに、楽しかったなんて、ぼくはちがうと思いました。そしてぼくの番が来ました。水道までの道は、となりの子が教えてくれました。「前、前、右...」

友だちの声のとおりに進むと、水道につきました。アイマスクをしてからは、目の前が真っ暗になりました。そして水道からは、となりの子と交代してぼくが案内をしました。「前、右...」

自分で道を教えてあげるのも、ドキドキしました。たった数十メートルでろう下という安全なところなのに「まちがえちゃったらどうしよう。」「だれかとぶつかっちゃったらどうしよう。」と思っていました。アイマスク体験を通して、目が不自由な人は毎日どんな思いで生活をしているのか少しわかった気がします。光を感じることができず真っ暗な世界で生活をするの大変さやこわさをアイマスク体験で学べました。

町の中には、音の出る信号機や黄色い点字ブロックなど、目が不自由な人が安全にくらすための工夫があります。点字ブロックを自転車などでふさいでしまうと目が不自由な人にとって大変きげんです。みんなが協力してしようがいのある人もない人も安全にくらせる町にしたいです。